

輸血・細胞治療センター

1. 概要

本年度から血液・腫瘍内科の造血幹細胞移植の本格的実施に備えて、幹細胞処理、保存体制を管理支援する業務を実施することになり、「輸血・細胞治療センター」と改組し、医師として従来のセンター長に加えて副センター長1名を増員した。今後も輸血療法が安全性・適切性を保ちながら迅速に実施できるように検査業務と血液製剤の管理業務を継続する。また、幹細胞凍結保存手技を修得するとともに、そのための機器の整備維持、管理を行っていく。その他、アルブミン製剤の使用状況一元管理だけでなく、2014年4月から輸血システムを利用して、その使用オーダー、製剤管理、出庫を含めての一元管理を開始した。2015年には輸血細胞治療学会の外部委員によるI（inspection 監査）& A（accreditation 認証）を受審する。

（センター長 杉浦 勇）

●検査件数

2014年	総数(件)
血液型	17,330
不規則抗体スクリーニング	12,050
交差適合試験	5,676

●製剤使用状況

2014年	総数(単位)
赤血球液(RBC)	11,318
新鮮凍結血漿(FFP)	3,392
濃厚血小板(PC)	21,025

●製剤廃棄率

2014年	廃棄率(%)
赤血球液(RBC)	0.41
新鮮凍結血漿(FFP)	1.53
濃厚血小板(PC)	0.05

●アルブミン製剤

2014年	本数(本)
25%アルブミン	1,653
5%アルブミン	993

●副作用集計報告

2014年	副作用報告数(件)	実患者数(人)
赤血球液(RBC)	96	67
新鮮凍結血漿(FFP)	34	17
濃厚血小板(PC)	176	49